

地域防災力の向上と災害に強い安全なまちづくりの推進を求める意見書

東日本大震災、熊本地震をはじめ、土砂災害、豪雨による水害等各地で想定を超える大規模な自然災害が発生し、甚大な被害が相次いでいる。本年、8月には台風の上陸により、特に北海道や東北地方を中心に、多くの人命が失われ、甚大な被害に見舞われた。また10月には鳥取でも震度6弱の地震が発生している。

迅速な復旧・復興とともに、安全・安心な国づくりに資する防災・減災対策は喫緊の課題である。

よって政府においては、地域防災力の向上と災害に強い安全なまちづくりの推進を図るため、下記の事項について取り組むことを強く求める。

記

- 1 全自治体へ被災者支援システムの導入を促進すること及び自主防災コミュニティの組織化や訓練の実施等地域防災力の向上を図ること
- 2 大規模水害から住民の生命、身体及び財産を守るための自治体の枠を超えた流域ごとのタイムラインの作成や避難行動に直結するハザードマップの作成、適切な避難勧告・指示発令のための体制構築を図ること
- 3 災害に強い安全なまちづくりの推進として、緊急輸送道路や幹線道路の路面下の空洞に対する調査及び対策、スマートフォン等で家族の安否や緊急連絡を得られるようにするための公衆無線LANの適切な設置及び災害時におけるトイレ機能確保のためのマンホールトイレの整備を促進すること
- 4 子どもや女性、高齢者や障がい者が、避難所生活でつらい思いをすることがないように避難所の環境整備や防犯体制を強化すること

以上、地方自治法第99条の規定にもとづき意見書を提出する。

平成28年12月21日

川口市議会 議長

内閣総理大臣
総務大臣
国土交通大臣
内閣府特命担当大臣（防災担当）
様